

# 小児救急外来受診からみた 子どもの事故等の状況報告

平成29年1月～12月における県内2病院の  
小児救急外来受診状況の集計結果

調査対象期間 平成29年1月1日～同年12月31日

調査対象患者 徳島赤十字病院、県立中央病院の小児救急外来を事故等  
が原因で受診した0歳から中学3年生(15歳)までの患者

1. 男女別・年齢別・受診状況
2. 男女別にみた受診の原因となった事故の状況
3. 月別・年齢別・受診状況
4. 四半期別にみた事故等の内容
5. 年齢別にみた受診の原因となった事故等の状況
6. 年齢別にみた受診時診断の状況
7. 年齢別にみた事故に関連した器物の状況
8. 年齢別にみた事故等の発生場所
9. 事故等の内容別にみた傷病の程度
10. 事故等の内容別にみた診断の状況
11. 事故の発生場所別にみた事故等の内容

添付資料:各集計表

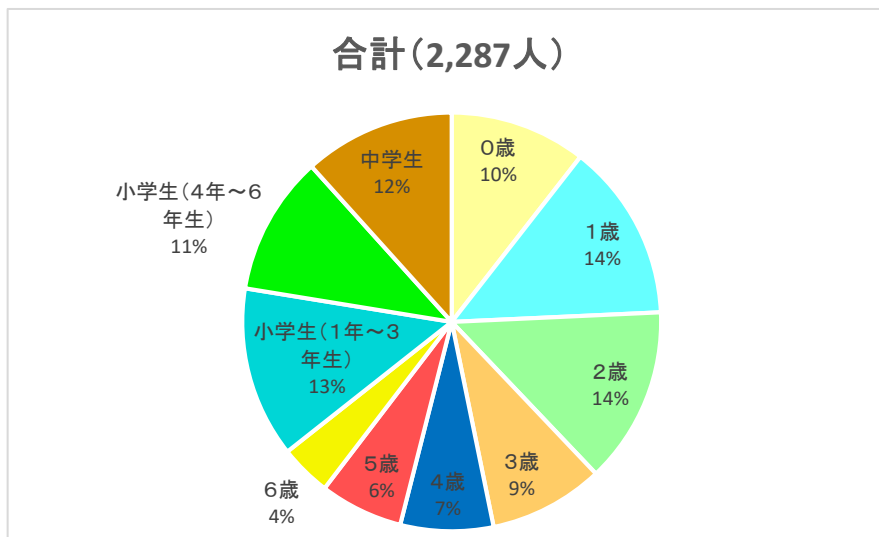
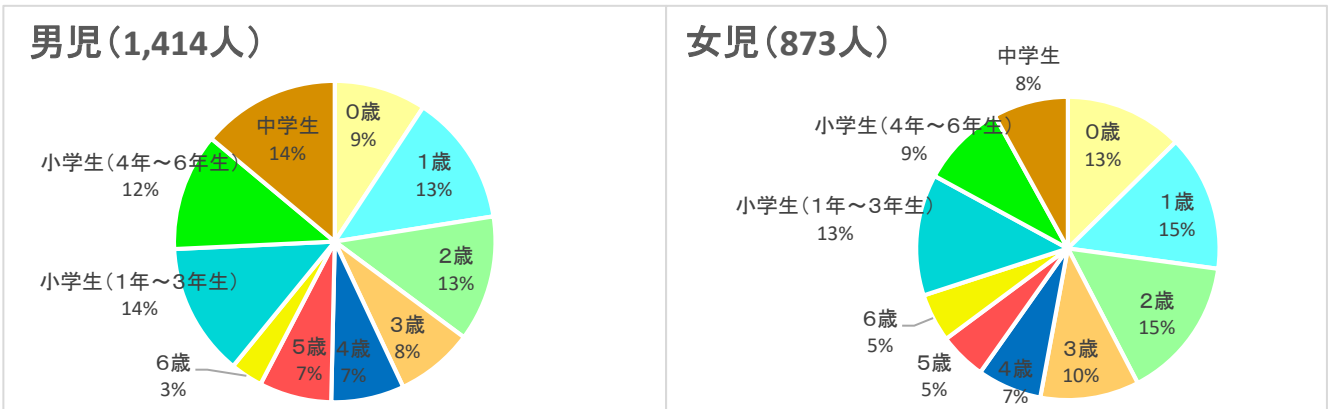
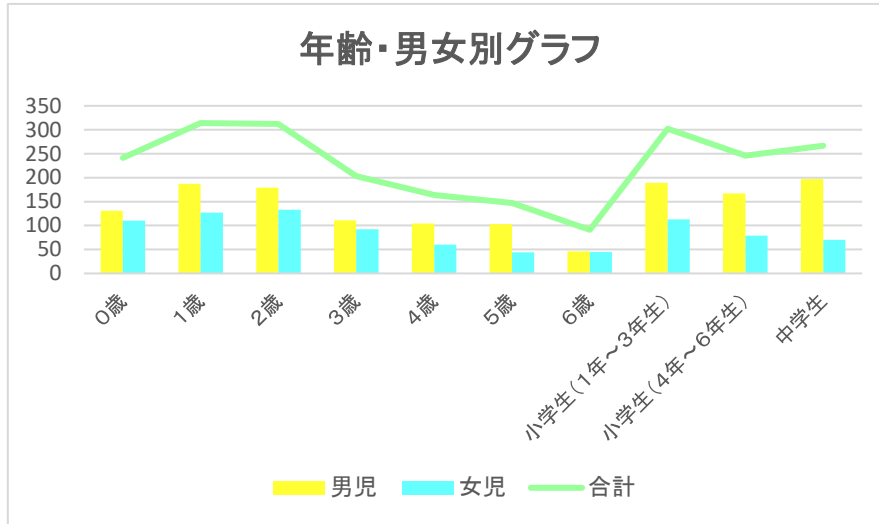
## ※事故等

- |        |               |
|--------|---------------|
| 1 転落   | 8 衝突          |
| 2 転落   | 9 切る・刺す       |
| 3 誤飲   | 10 挟む         |
| 4 窒息   | 11 AED施行／心肺停止 |
| 5 刺傷   | 12 熱中症        |
| 6 溺水   | 13 食物アレルギー    |
| 7 交通事故 | 14 その他        |

# 1. 男女別・年齢別・受診状況

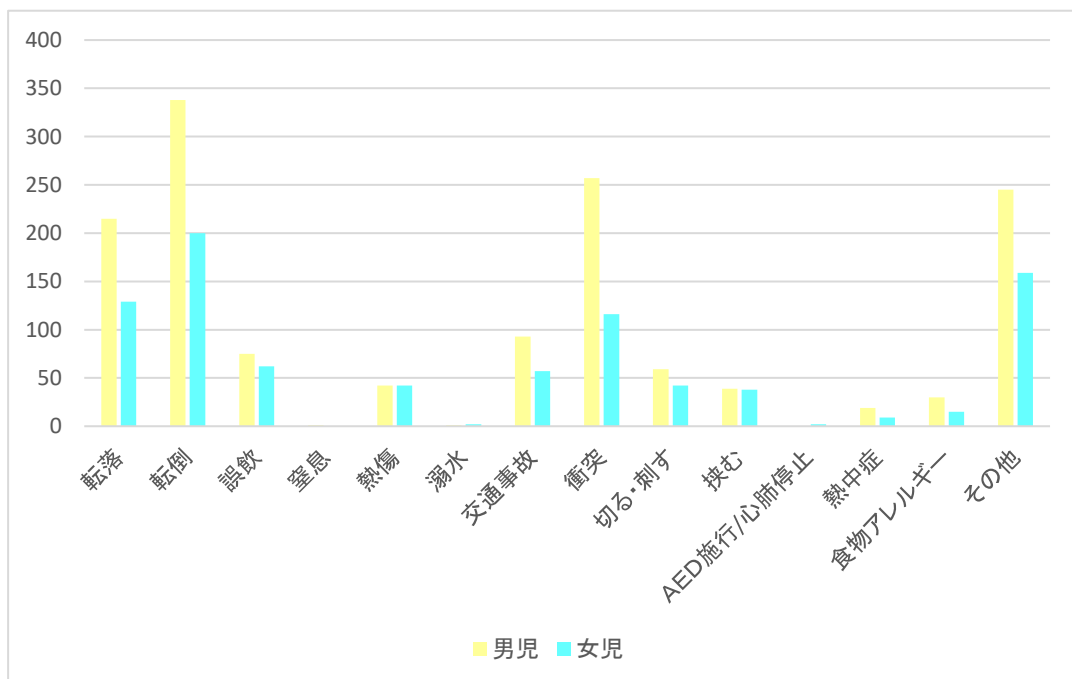
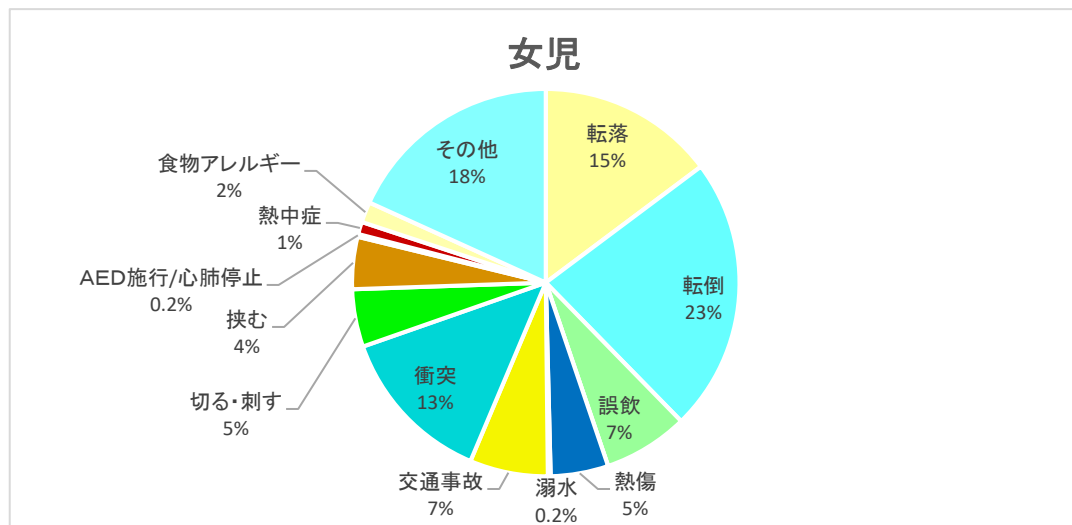
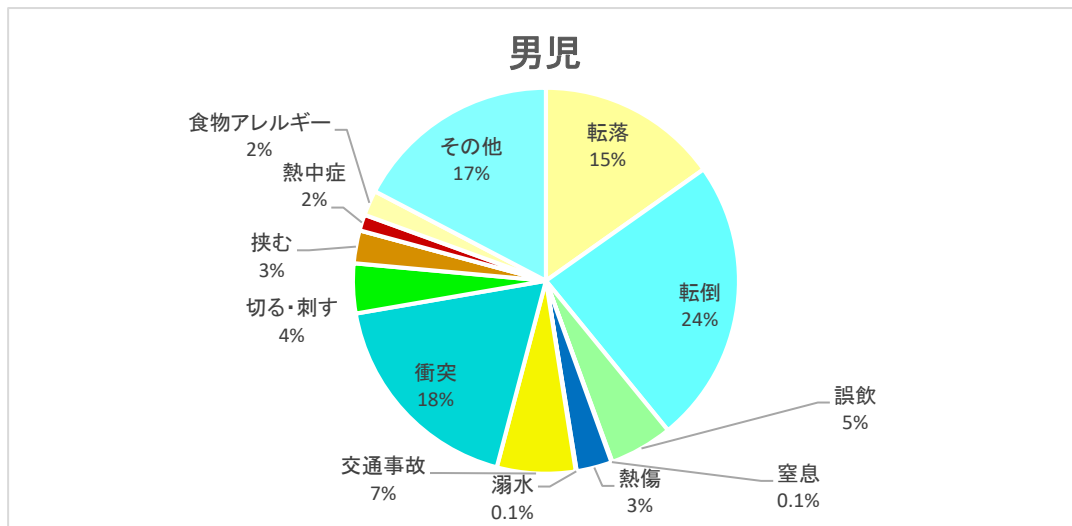
男児1,414人、女児873人、計2,287人が事故等が原因で2病院の小児救急外来を受診しており、男児が約6割を占めています。

年齢別にみると、6歳までが1,472人(64%)で、特に3歳までが1,070人(46.8%)と半数近くを占めています。



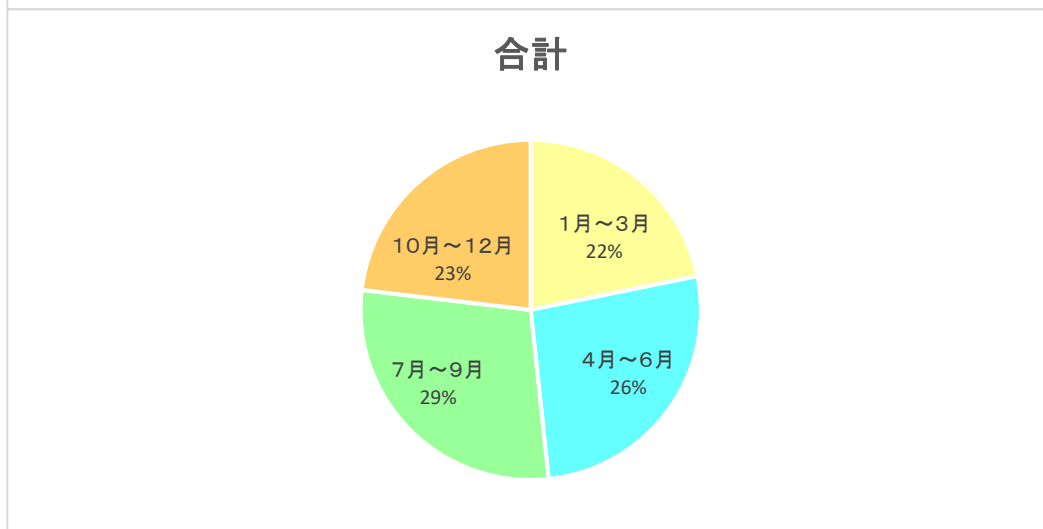
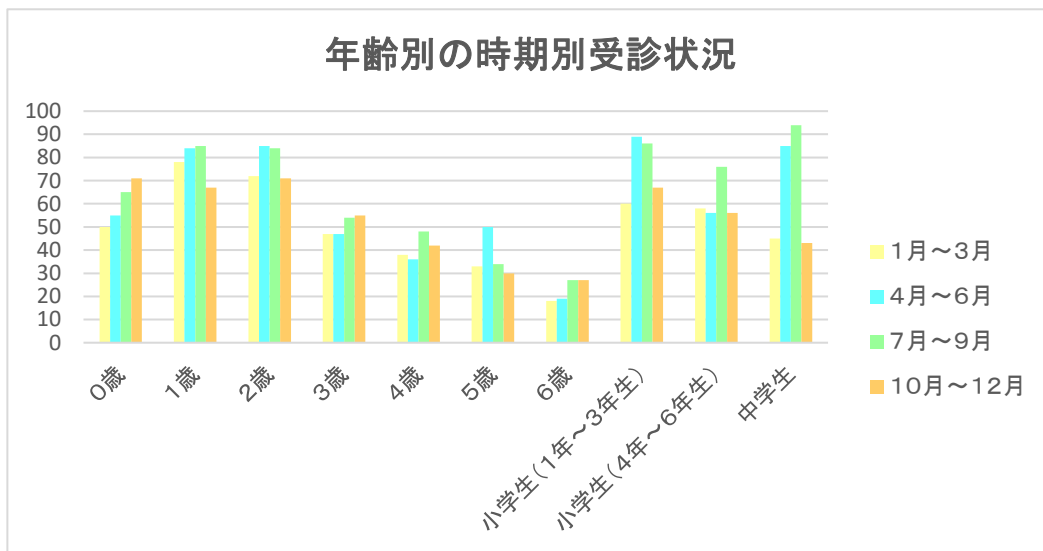
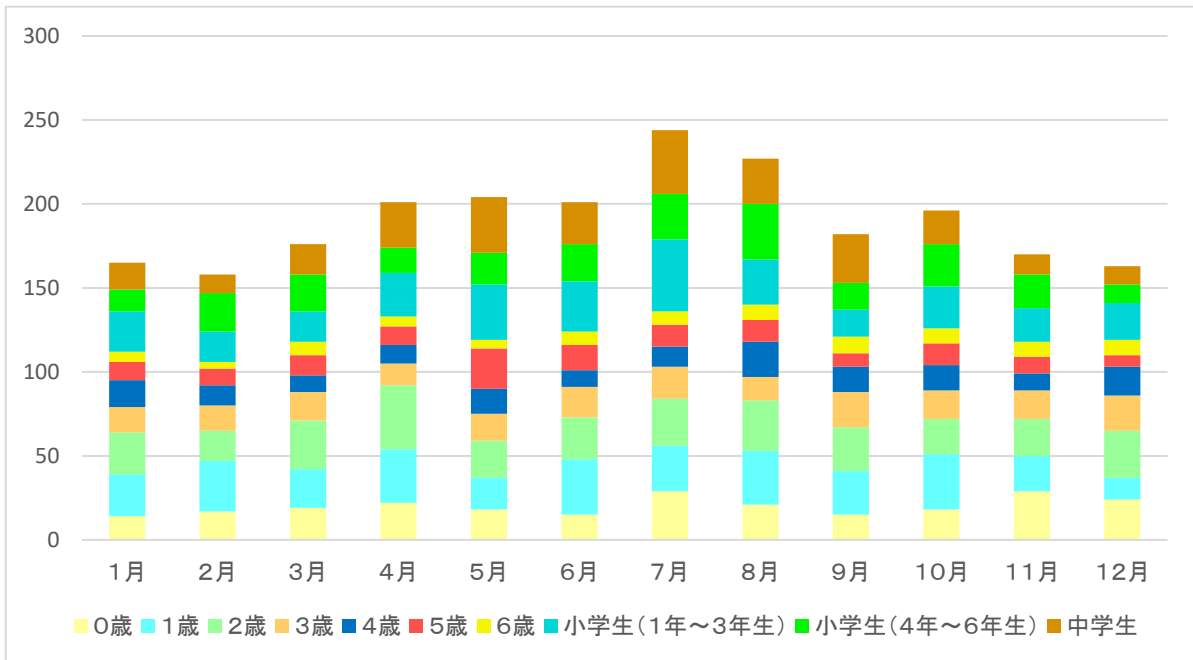
## 2. 男女別にみた受診の原因となった事故の状況

事故等の原因となる事故の状況を性別にみると、「転倒」が最も多く、「転落」や「衝突」が続いています。男児においては、「衝突」の割合が女児よりも高くなっています。



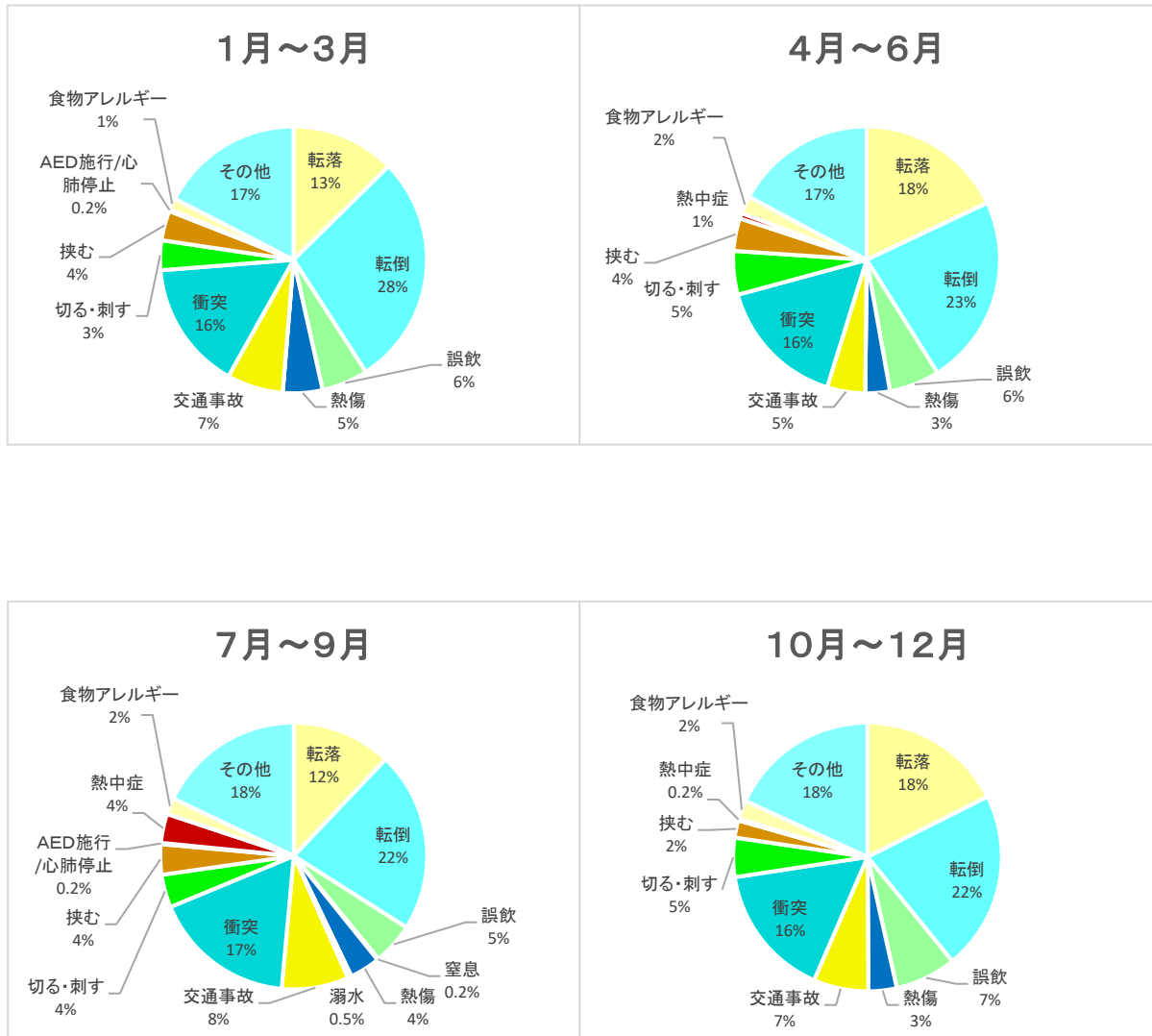
### 3. 月別・年齢別・受診状況

事故等の原因による小児救急外来受診数を月別にみると、4月から8月にかけて1か月の受診数が200人を超えており、四半期でみると、夏休みが含まれる7～9月において小学生・中学生の受診が増加しています。



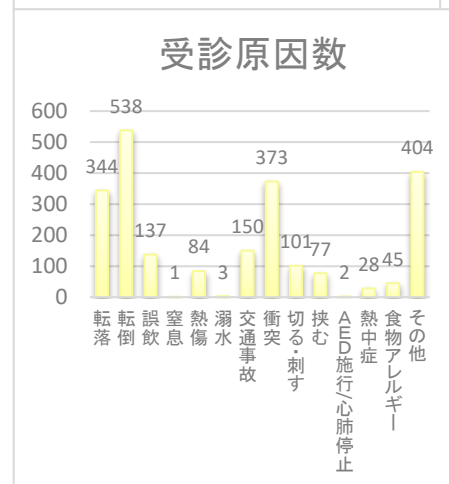
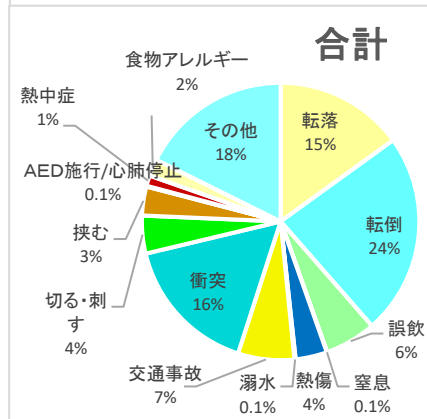
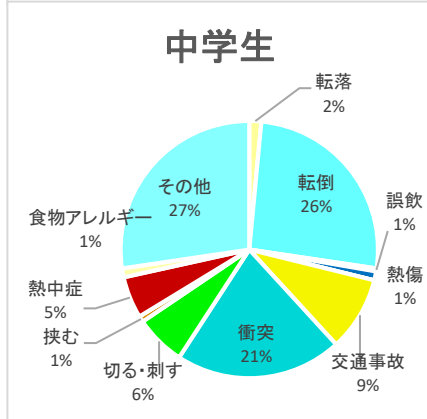
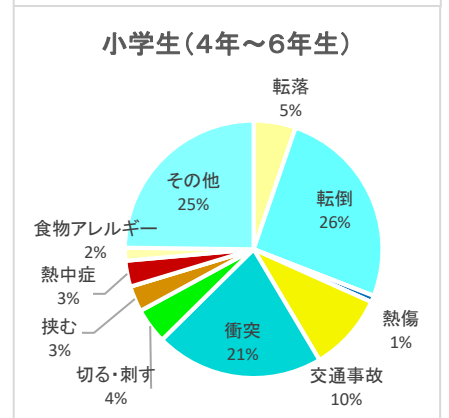
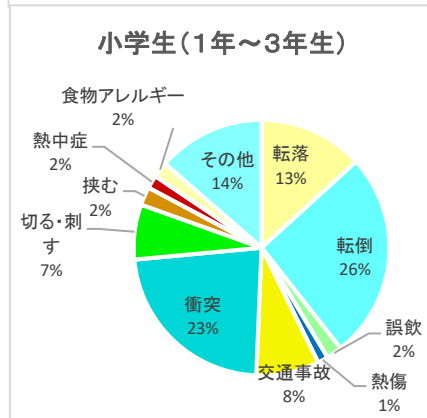
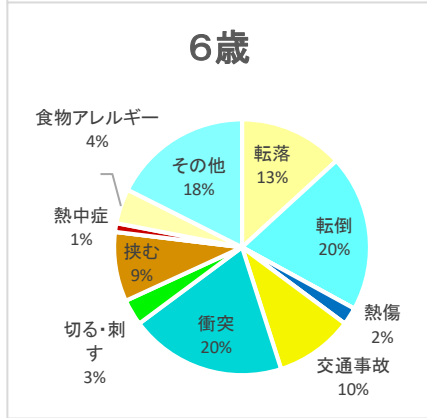
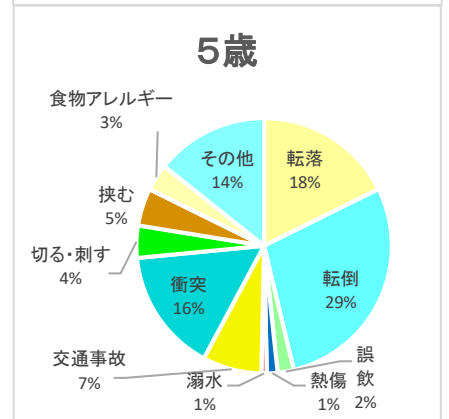
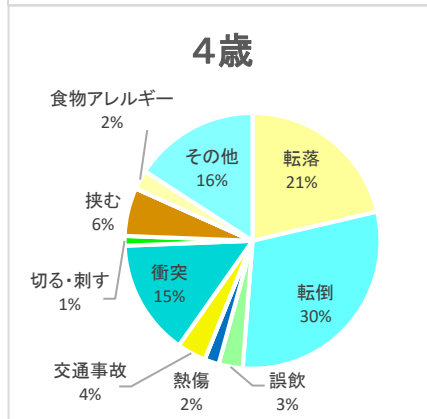
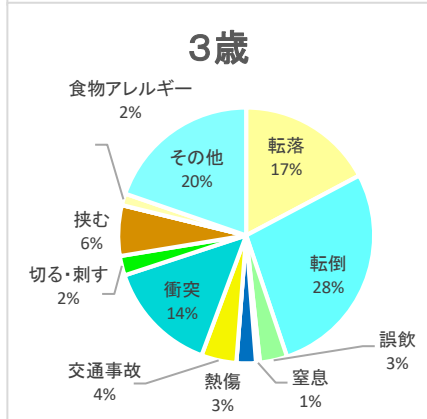
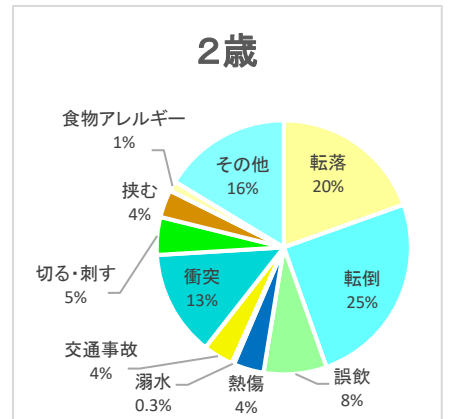
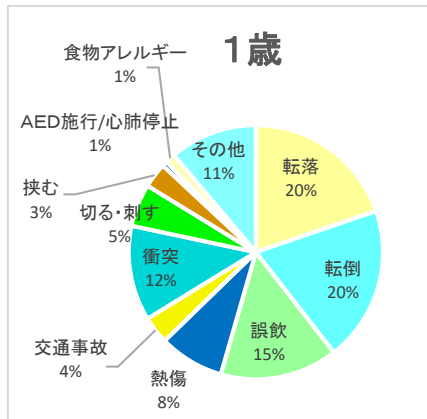
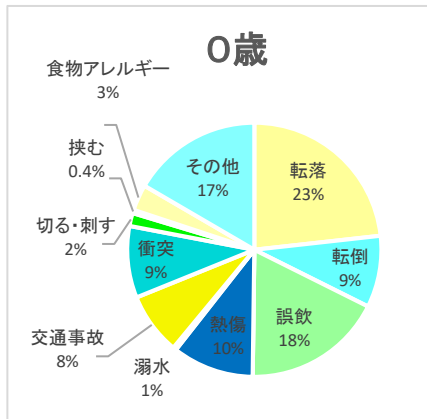
## 4. 四半期別にみた事故等の内容

事故の内容を四半期別にみると、「転倒」「転落」「衝突」がどの時期においても上位になっています。また、熱中症は、7～9月に割合が高くなっており、「4～6月」「10～12月」においても発生しています。



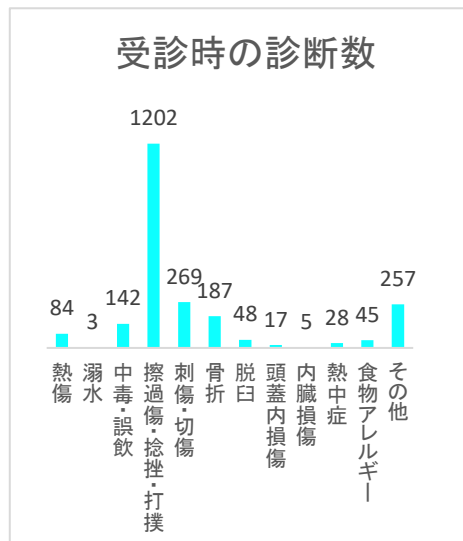
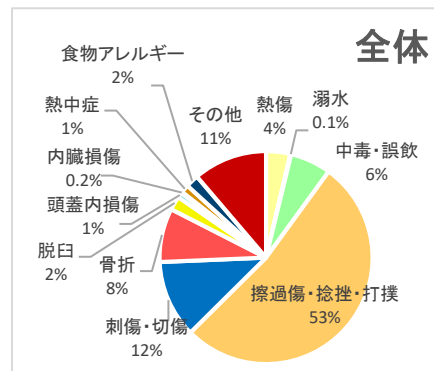
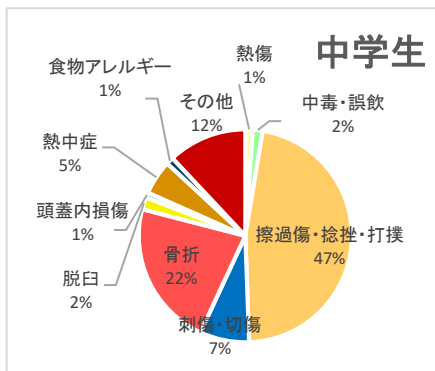
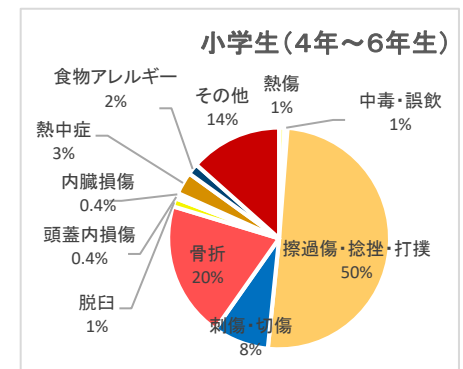
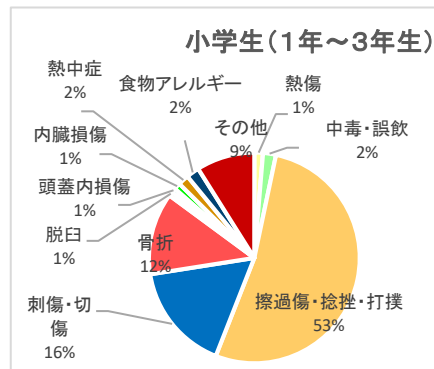
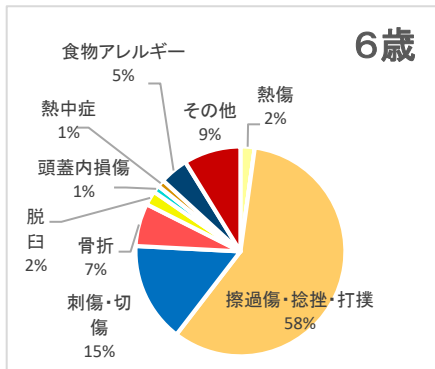
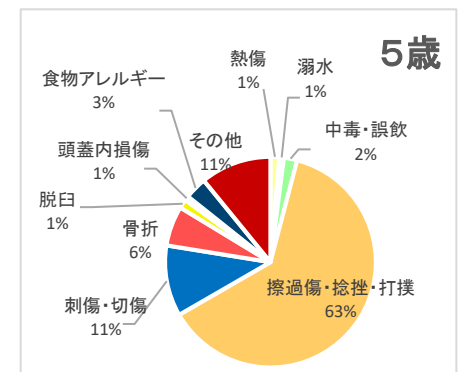
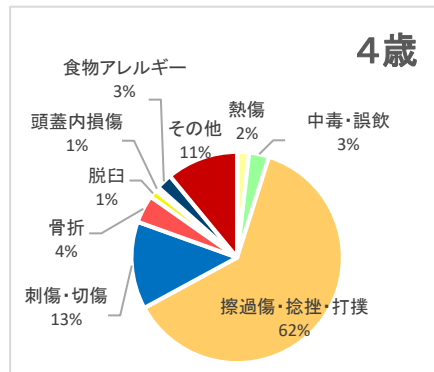
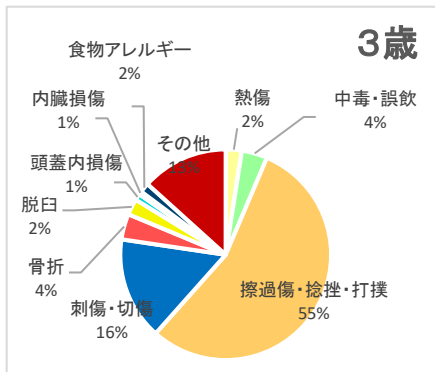
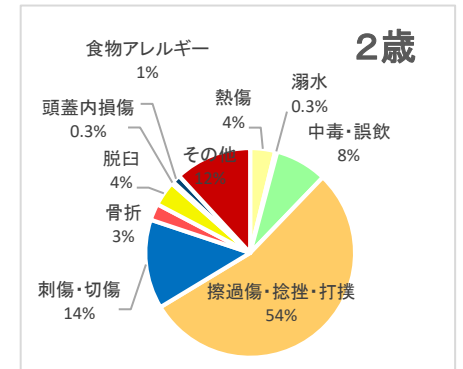
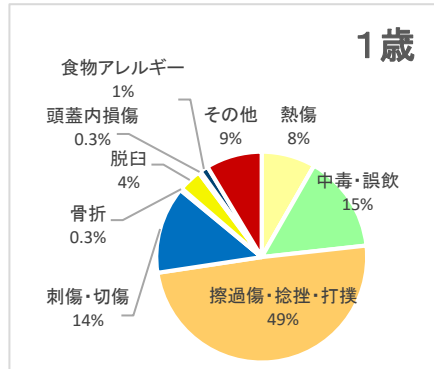
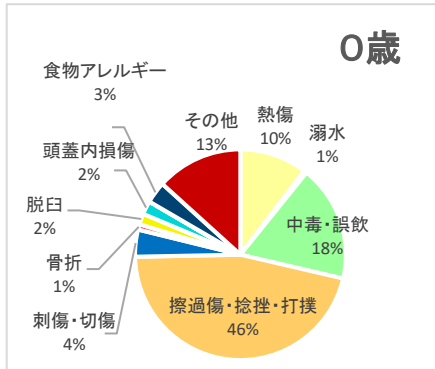
# 5. 年齢別にみた受診の原因となった事故等の状況

受診の原因となった事故等の状況は、0歳、1歳は転落が最も多く、1歳以上になると「転倒」が最も多くなっています。また、0歳から2歳までは、「誤飲」や「熱傷」が多く、小学生以上になると、「衝突」や「交通事故」が多くなっています。



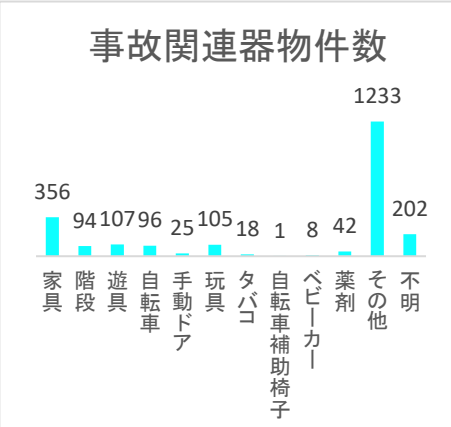
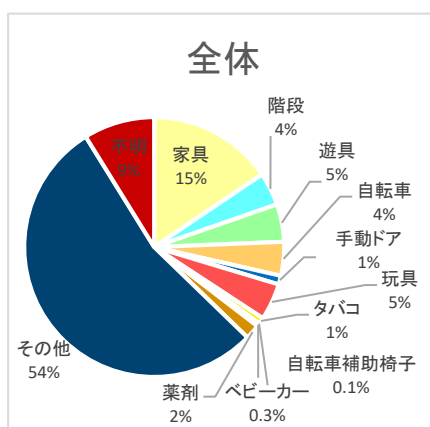
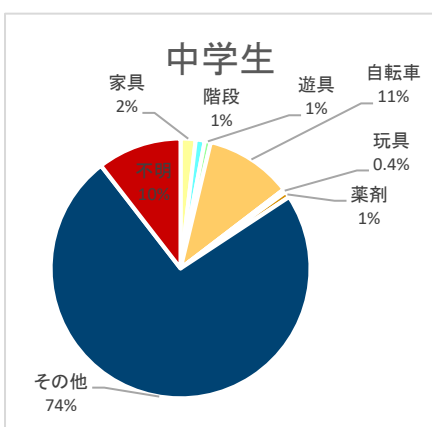
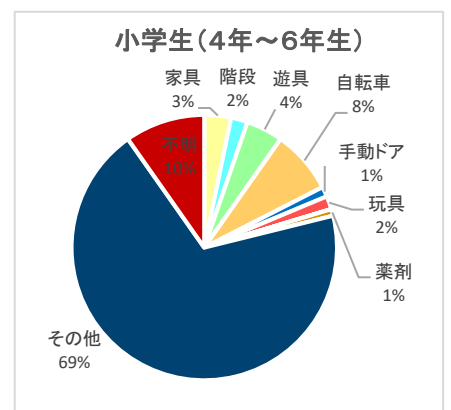
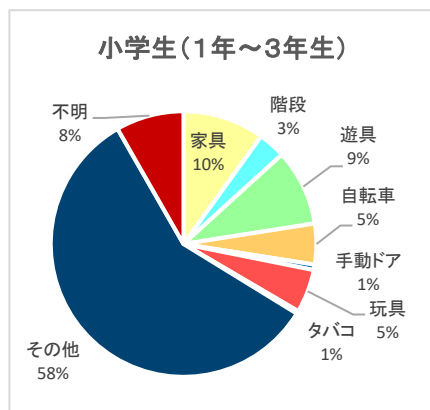
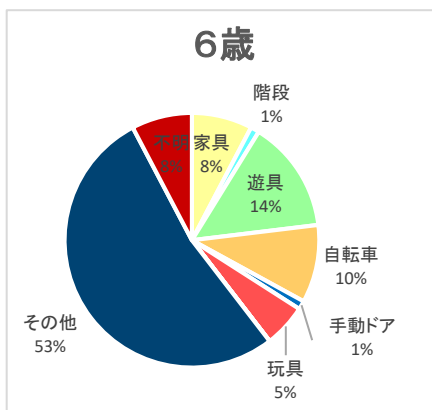
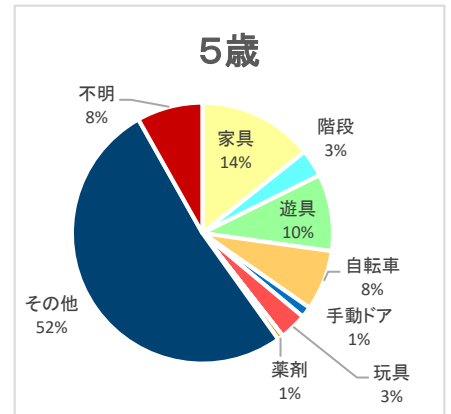
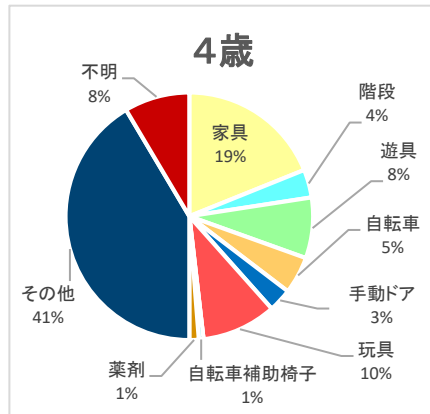
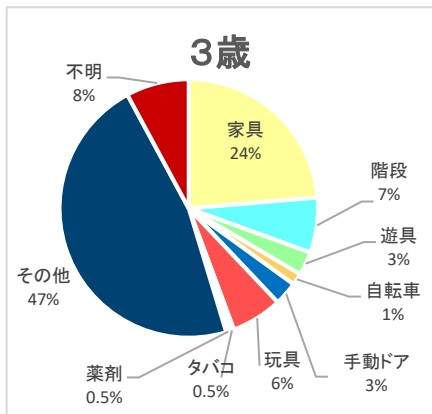
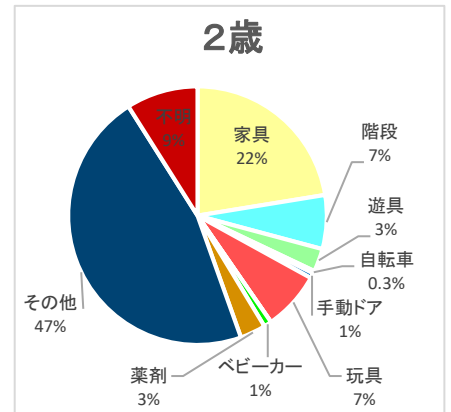
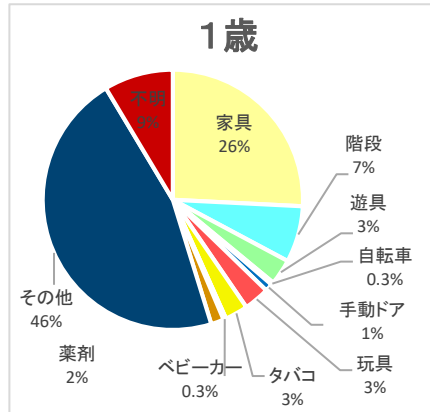
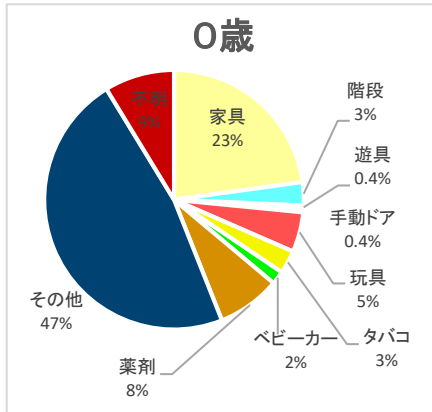
# 6. 年齢別にみた受診時診断の状況

受診時の診断でどの年齢層においても最も多いのは、「擦過傷・捻挫・打撲」で、次いで、0歳から1歳では、「中毒・誤飲」が多く、2歳から小学生低学年では、「刺傷・切傷」が多くなっています。また、小学生以上では、「骨折」が多くなっています。



# 7. 年齢別にみた事故に関連した器物の状況

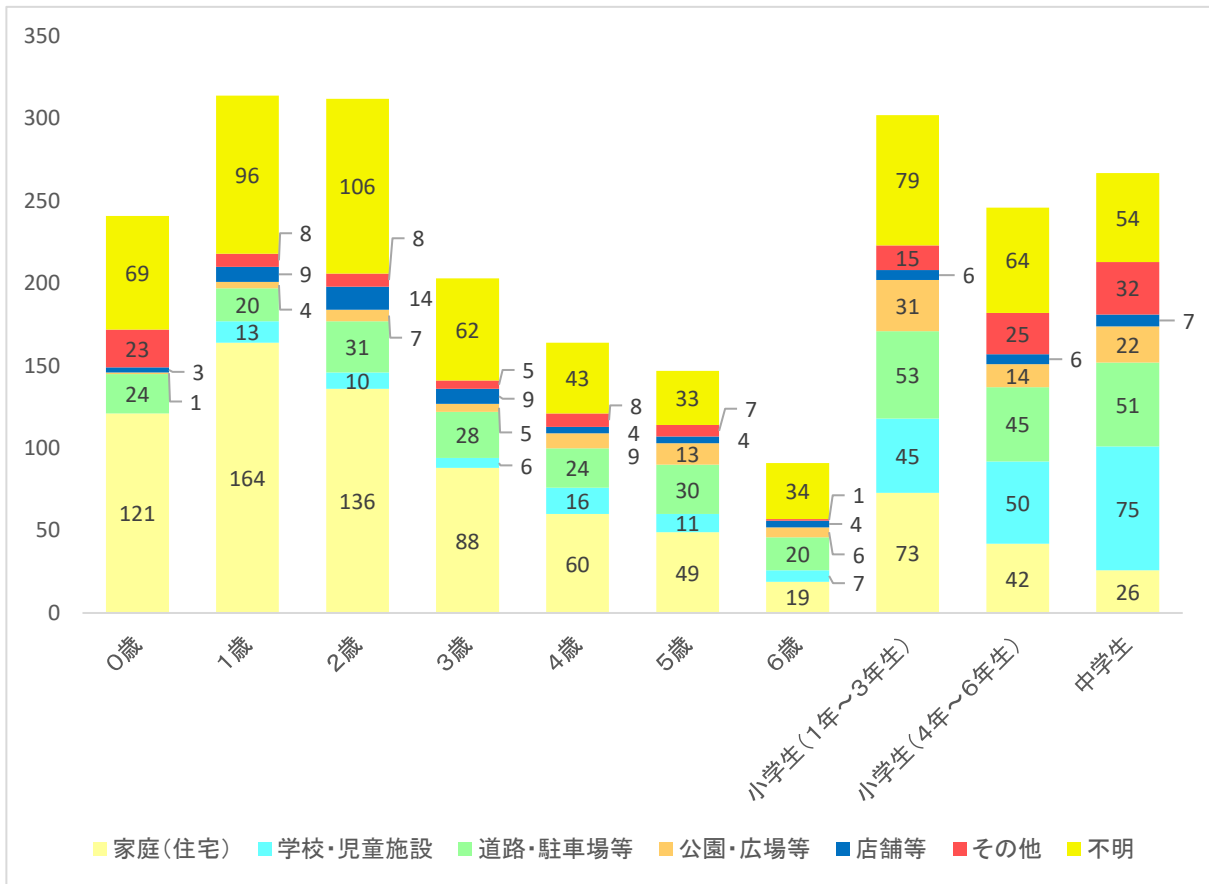
事故の要因となったと考えられる器物は「その他」を除くと、0歳から5歳、小学校低学年で「家具」が最も多く、6歳では「遊具」が、小学校高学年、中学生では「自転車」が最も多くなっています。また、0歳から小学校低学年までは「玩具」も多く、さらにタバコが関連していた事例が、0歳で7人、1歳で9人みられました。



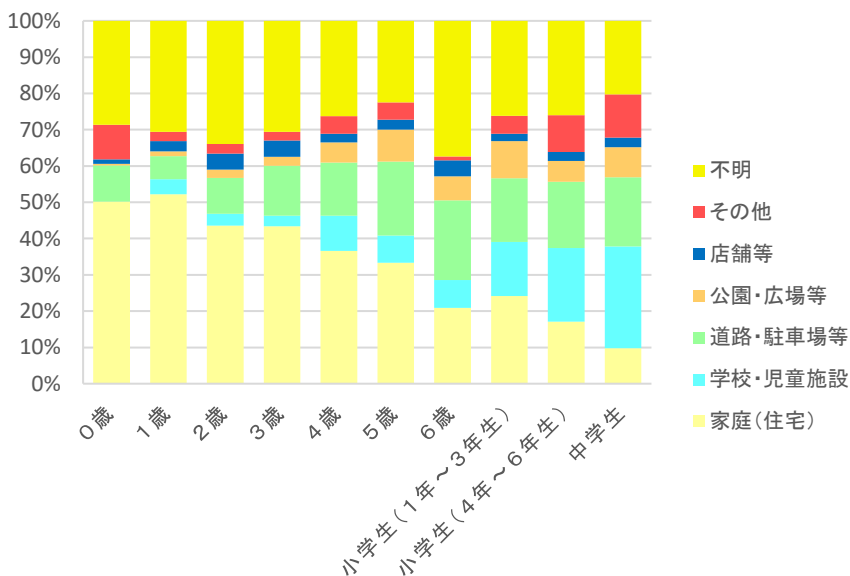


## 8. 年齢別にみた事故等の発生場所

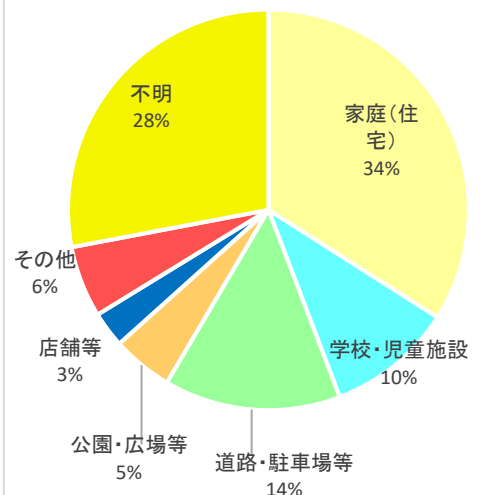
事故の発生場所は、0歳から3歳までは、家庭(住宅)が多く、小学生、中学生では、学校・児童施設等や道路・駐車場等が多くなっています。



### 年齢別の事故発生場所割合

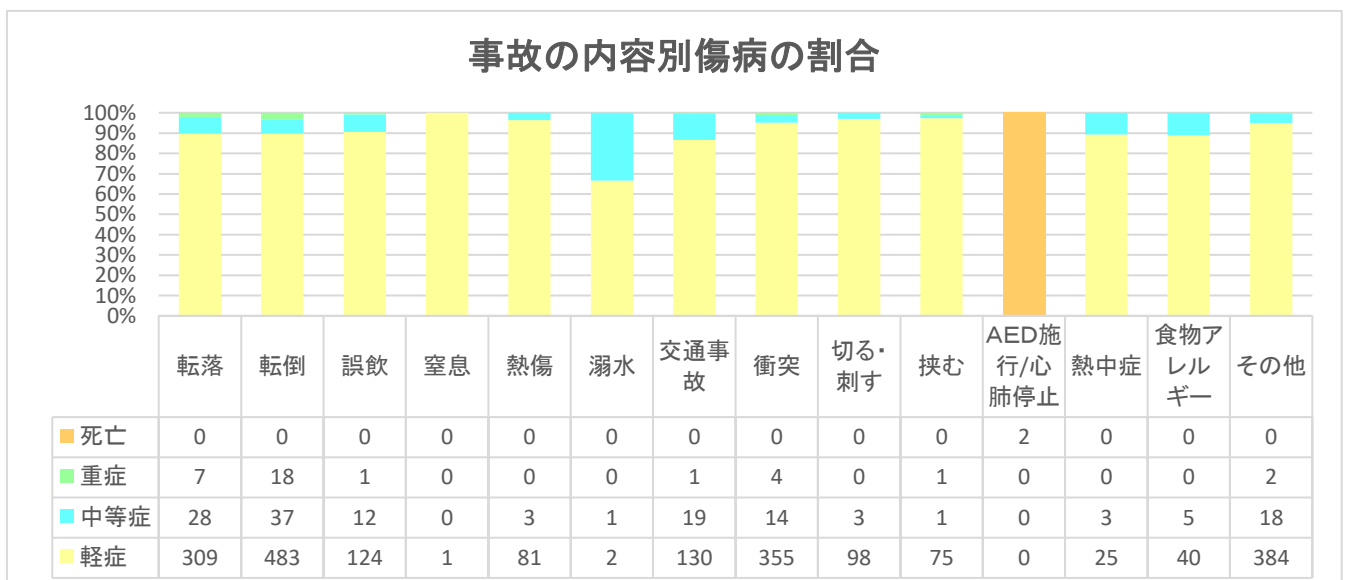
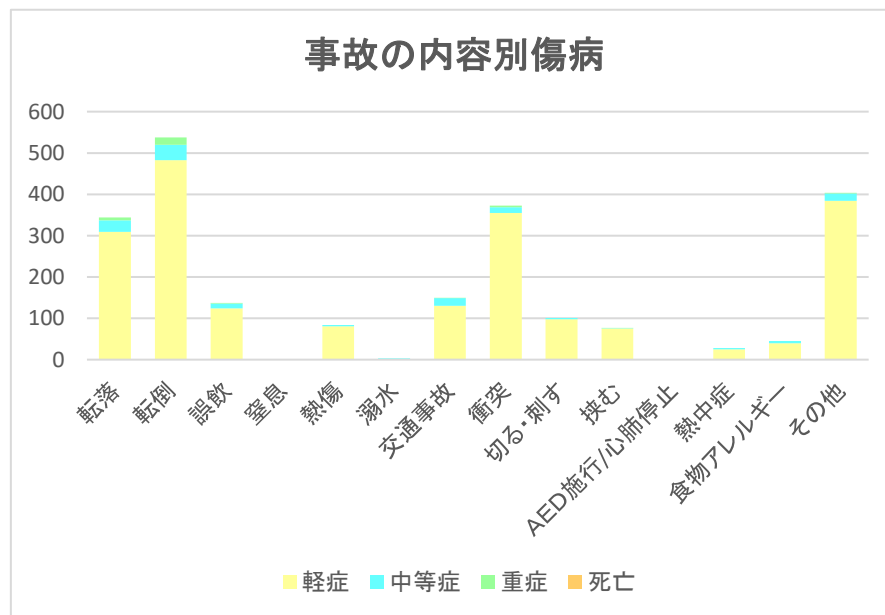
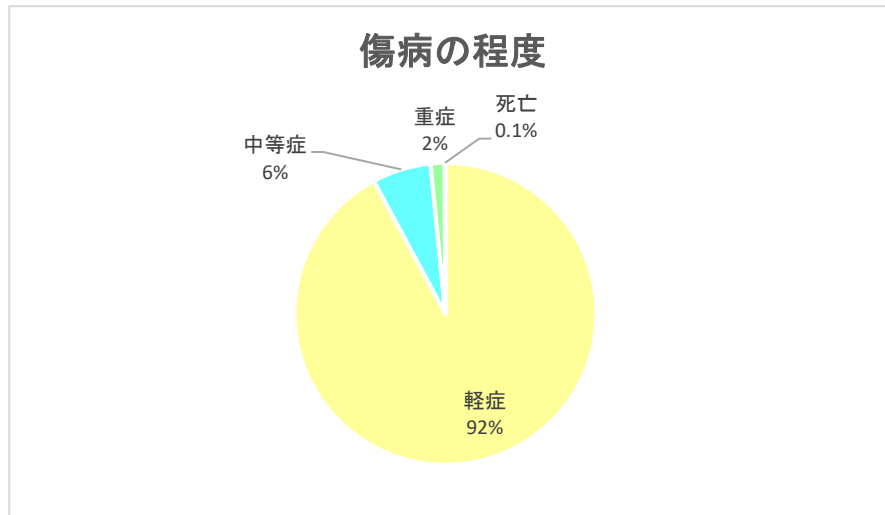


### 全体の事故発生場所割合



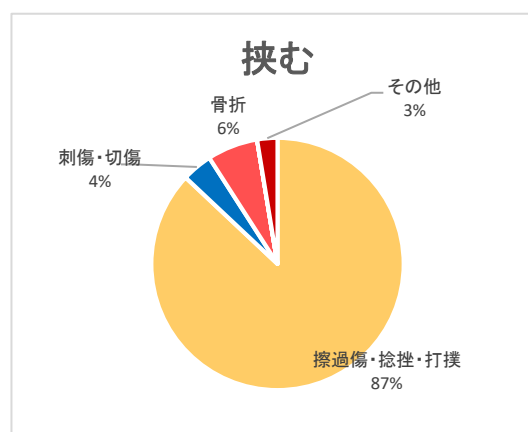
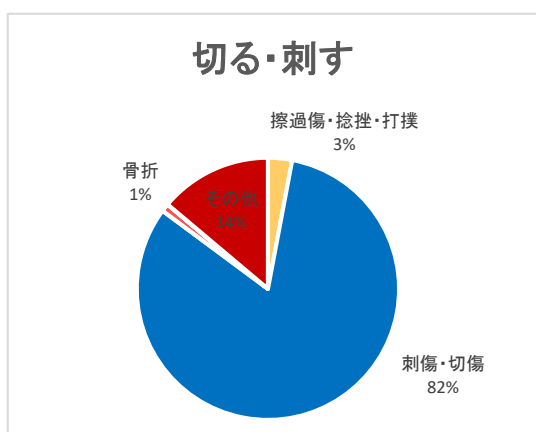
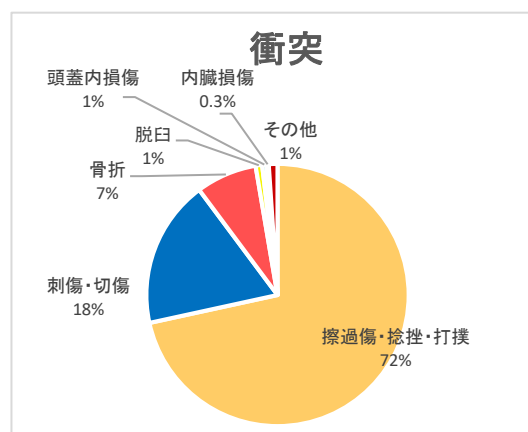
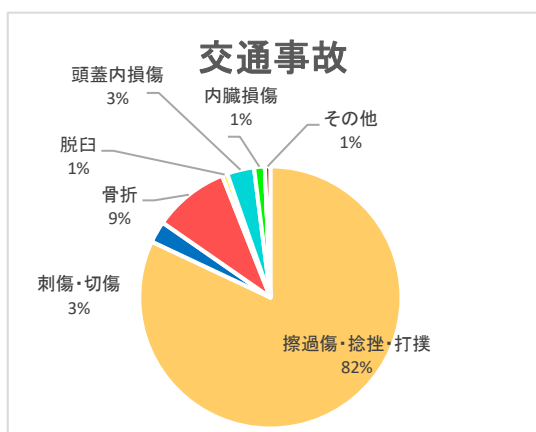
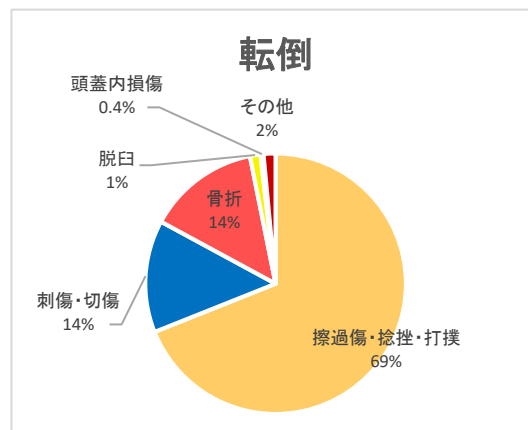
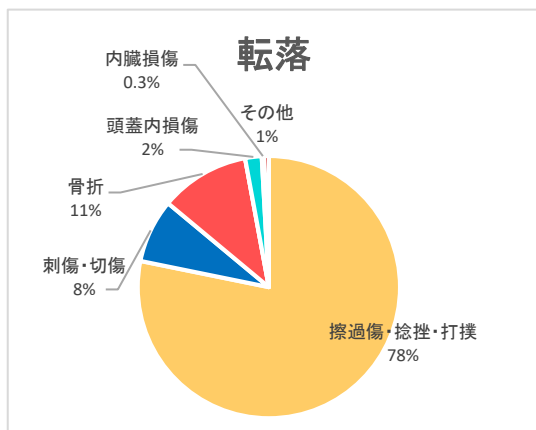
## 9. 事故等の内容別にみた傷病の程度

傷病の程度について、「全体」をみると、「軽症」が92.1%と多く、「中等症」は6.3%、「重症」が1.5%、「死亡」が0.1%(2人)となっています。事故等の状況別にみると、事故数の少ない「溺水」を除くと、「交通事故」の「中等症」が最も高く、「熱中症」、「食物アレルギー」も中等症が10%を超えています。



# 10. 事故等の内容別にみた診断の状況

「転落」「転倒」「交通事故」「衝突」について、受診時の診断の状況を見ると、「擦過傷・捻挫・打撲」が最も多く、次いで、「転落」「転倒」では、「骨折」が多くみられます。



# 11. 事故の発生場所別にみた事故等の内容

事故の発生場所として最も多い「家庭(住宅)」では、「転倒」が最も多く、次いで「転落」も多くみられます。「学校・児童施設」では、「転倒」や「衝突」が多く、「転落」が続いています。「道路・駐車場等」では、「交通事故」が最も多く、「転倒」が続いています。また、「公園・広場等」、「店舗等」では、「転落」「転倒」が多くなっています。

